

公表

【児童発達支援】事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ゆーもあstudio		
○保護者評価実施期間	2025年12月19日 ～ 2026年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	2025年12月19日 ～ 2026年1月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の遅れを心配する保護者様から寄せられるお悩みや相談には随時迅速に対応し、適宜面談・関係機関連携等も行い状況を多角的に判断、必要と思われる助言や支援を継続的に行っている。 ・日々の支援内容はお迎え時に口頭またHUGを通じて保護者様と共有しており、また、提供する内容も詳細に伝わるよう工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な児童発達支援管理責任者の面談に同席し、若手職員の面談スキルの向上を図れるようにしていく。「家族支援」情報の共有・支援内容分析の為、会議の機会も職員間の連携をより密にする。また、外部研修にも積極的に参加し、保護者対応の質の更なる向上を図る。
2	清潔かつ年齢や活動内容に応じた生活空間の提供 安全管理と配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の各部屋・備品・遊具等を児童の年齢・特性等に配慮し、使用ルールをわかりやすく視覚化・安全かつ必要に応じた支援を適切に行えるよう細かく配慮している。 ・必要な個所に防犯カメラを設置、こどもも職員もお互いを守るための工夫を導入している。 ・環境整備に力を入れており、日々の掃除をこどもを交えて徹底して行っている。また物の住所も視覚的に伝わりやすいよう整備、こども達にもわかりやすく片付けしやすいよう工夫している。 ・支援前に打ち合わせを実施、当日のこども達の状況に応じた配置や動きを事前に想定し支援に臨んでいる。また支援後には振り返りも実施、当日の各児の様子を共有し合ったり、ヒヤリハット事案があればその場で対応策を話し合う場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの死角になる箇所について、指導員が適宜目視で確認できるよう立ち位置など検討していく。また、子どもたちにもお互いを守るためのルールを継続して確認してもらい、より安心できる事業所にできるよう見直しを行う。 ・クールダウンできる場所を増設するなど、環境の再設定を図る。また必要に応じて職員の配置数を増やすなど、より子どもの安全を考えた体制を検討する。
3	こどもの意思決定支援	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に合わせた一人ひとりのお子様に必要な支援を、出来る限り各児の特性や趣味嗜好に沿って提案し、それぞれのこどもの意思決定を尊重した活動を行いスムーズな集団適応がはかれる事を目標に支援を行っている。 ・子どもたちが自身の思いを自由に、そして安心して意見を発信できるよう適宜指導員が介入し、能動的に動きだせるような仕組み作りを行い、年齢や特性に応じて集団参加しつづつ自己表現できる場面を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの思いや考えを表出しやすい環境・活動を意識してプログラムを計画立案し、言語化の難しい児童でも視覚ツール等用いて意志表出の機会を作り、自己肯定感が感じられるような支援を工夫したトレーニングを提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係各所との情報共有の在り方 必要に応じた対応ができていない	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、学校との連携は面談の機会を定期的に設けることでスムーズに行われている。しかし、保育所等との情報共有の機会はまだ積極的に行えてはならず、児童発達支援利用児の情報共有の充実に向けて動きを課題と考えている。 ・子育て相談課等との連携を強化し、対象保護者にペアレントトレーニング参加を勧めたり、就学に向けての情報提供や連携を多面的に行えるよう関係機関との連携を進めたい。 ・セルフプラン利用の方々に児童発達支援・放課後等デイサービス事業所としてどこまで関わることができるか目下模索段階にある。 ・保護者様へ向けた子どもの成長に必要な情報の発信、ないしは機会の提供についてまだ十分とは言えず、その発信方法も含め検討の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様からの意見を基に、外部機関との情報共有にどのようなニーズがあるのか確認していき、必要に応じて情報共有のためのフォーマットを作成する。 ・職員が広く子どもの自立や支援に関する研修の参加、または他機関見学を行っていき、事業所全体で関係機関連携への見識を深めていく。また実際に連携が必要になった際の動きを淀みなくとれるよう訓練や共有を行っていく。 ・職員のみならず保護者様に向けた家族支援プログラムや、関連する研修の情報について収集を行っていき、伝わりやすい形で情報提供できる形を作る。 ・第三者による外部評価についても検討し、より業務改善に資する仕組みの導入を検討する。
2	地域や保護者同士のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・他児童発達支援・放課後等デイサービス事業所との関わり等は設けていないが、広範囲の地域からお預かりしている子ども同士の積極的な交流の場を推進している。 ・また様々なケースの子どもをお預かりしていることから、積極的な外部の子どもとの交流機軸は設けていないが地域交流参加は広く検討参画している。 ・保護者同士の交流については年に一度保護者会を実施しているが、より情報共有の場を設ける必要も示唆されている。 ・現状児童発達支援をお受けしているケースが少ないことから、保護者様同士の交流の創出が課題としてあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動資源の探索と適切な導入の検討を行う。 ・地域行事に事業所としてどのように参画するか、在り方を模索する。 ・発達支援センター・基幹相談支援事業所等との情報交換を積極的に行い、地域特性に合わせた交流や活動参加について検討する。 ・保護者会以外にも家族支援につながるような機会の創出については、「家族支援（グループ）」や「子育てサポート」の場の提供をすすめてご家族間のつながりを作り出せるような機会を検討する。